

選考委員長講評

梅光学院大学 教授 樋口 紀子

「女性いきいき大賞」は今回で5回目になります。今回応募された団体は、41団体でした。1次選考では各分野を念頭におきながら、20団体に絞り、2次選考では分野ごとに優秀賞一つを選び、その中からさらに最優秀賞を決定しました。また、優秀賞には選ばれませんでした。それに次いで評価の高かった団体を「奨励賞」としました。各分野の優秀賞を選ぶこと、その中から最優秀賞を選ぶことは例年のように甲乙つけがたく、難航しました。今年の特色は、この5年間、何度も何度も応募して下さる団体が増えてきていることです。そうした中で4つの団体だけに絞るというのは、本当に忍びなかったのですが、今回選にもれた団体も、この結果にめげることなく、次に向けて“いきいき”と活動をし続け、新たなことにも挑戦しながら、また応募して頂きたいと思います。また、「学生の部」は、昨年に続き、山口県立大学の「県立大学栄養学科食育プログラム開発チーム」に決まりました。コープやまぐちとも連携を取りながら食育の活動を展開して頂きたいと思います。受賞したどの団体もこれをきっかけに、さらに“いきいき”と活動して下さい。なお、優秀賞団体の授賞理由は以下のとおりです。



○すずかけ（最優秀賞・山口県知事賞）：子育て分野

13年間にわたり、地域、特にOBの方が学校に入って教育に携わり、しかもその活動が放課後ではなく、正規の授業の中に組み込まれ、学校と連携した取り組みをしているということが評価されました。これは学校側から絶大な信頼を得ている証しでもあります。また、先生方も一緒に楽しみながらこの活動に加わっておられる様子がほほえましかったです。地域と学校がどのようにコミュニケーションを取り、また協力しながら、子どもたちの成長を見守っているかというところがこれからのモデルケースになると期待しています。

○「つくろいの会」（優秀賞・朝日新聞社賞）：くらしづくり分野

この会の活動は、施設にいる方の個々のニーズにあわせて、その人のためだけに必要なものを手作りするという、超長寿社会において女性ならではの細やかさと特殊な技術を発揮されている特有な事例であることが評価されました。また、このような地道で素朴な活動はなかなか光が当たりにくく、今後、必要とされる方が増えるであろう状況をふまえ、広く県下に知らせたいという思いを込めて、賞を贈りたいと思います。

○「光紙芝居」（優秀賞・yab山口朝日放送賞）：地域づくり分野

地元の民話・昔話を題材に自分達で光全域網羅した紙芝居を作ったことと、さらに年間上演回数も多く、地域文化・情報発信にも役立てて活動していることが評価されました。また、県内の紙芝居グループや中学生への指導は、紙芝居の裾野を広げるという意味においても、後継者の育成という意味においても大切なことです。この受賞を近々行われる県大会へのはずみとして頂きたいと思います。

○「点訳すずかけ」（優秀賞・山口新聞社賞）：福祉分野

点訳奉仕は地道な活動ですが、大切なものです。その活動を40年にわたり継続し、多くの実績を積んでいること、今後に向けて新たな挑戦をしておられることが授賞理由です。特に、小・中・高での指導、視覚障害者との交流等も高く評価されました。点訳奉仕者が減っているといわれる中、この団体を表彰することによって、点訳の大切さを改めてアピールすることができればと思っています。

最優秀賞（山口県知事賞）

すずかけ

代表者 金子 まり子（子育て分野／萩市）

活動の動機・目的

小学校の通学地域で生活している大人が、PTA とは違う形で自由に学校に出入りし、子どもたちと接してほしいという校長の想いを受け、絵本の読み聞かせを通じて、子どもの成長を見守ろうと、地域のおばちゃんが集まり、グループが発足。地域の子どもの健やかな成長を願う。13年間活動中。

活動の内容

①絵本の読み聞かせや紙芝居、影絵、民話の読み聞かせを2～3人一組で、クラス単位で行う。先生も一緒に聞いてもらい、楽しい時間を子どもと共有してもらう。

・毎週月・金曜日に低学年は授業中（ゆとりの時間を使って）

高学年は昼休み（25分間、読み聞かせ用の部屋で）

・学期初めに、学校側同席の上、学年ごとで内容を皆で確認し実施。

・活動後は、その都度、読んだ本や児童の様子、先生の様子を記録し、次回に活かす（年ごとに目録の作成）。

・学期ごとに反省会を開き、学校側からも教務主任・事務担当者、時には校長も同席し、授業以外の子どもたちの様子を情報交換しながら、子どもの実態を共有。

※ 読み聞かせ等の題材は、グループでテーマを決めたのち、前年度の目録を参考にして決める。本は学校の図書館や市立図書館、自分たちで買った本などから皆で季節にちなんだものを選んだり、聞いてほしいと思う内容を中心に選ぶこともある。4年生は科学に興味をもってもらいたいとの思いから科学絵本を中心にし、6年生は修学旅行前に、「戦争」をテーマにしたブックトークを行う。時には、読んだ本を置いて帰り、子どもたち自ら読んでもらうようにしている。

②「すずかけ文庫」（学校図書館内）への増本（毎年購入）。

③4年生の授業に、科学絵本に興味をもってもらうよう講師を招いて話をしてもらう。

※子どもたちにとって、楽しい時間と思ってくれることが一番なので、道徳的なしつけとか押し付けはせず、個々の子どもたちの感性を大事にしている。

これからめざしたいこと

何度か回数を重ねる度に、子どもの成長を感じることができることが何よりの喜び。子どもたちに「聞く」力が育ってきたと学校から大変喜ばれているし、目を輝かせてお話の世界に入り込んで聞いている子どもの様子は、活動の原動力になっている。これからも地域の子どもの健やかな成長を願うことと、活動を多くの人に知って頂き、同様の活動が県内に広がっていくこと、また、県内の他のサークルとも連携を取り、絵本作家をお呼びし、子どもたちにいろんな楽しい機会を作ってあげたい。



優秀賞（朝日新聞社賞）

つくろいの会

代表者 萩原 美津枝（くらしづくり分野／周南市）

活動の動機・目的

平成4年より、社協のボランティアの会で活動。依頼されたのがきっかけ。特別養護老人施設入所者を中心に高齢者の衣服のつくろいなどを通じて、少しでも地域の方へお役立ちができればとの思い。出来上がった作品を見て、利用して、喜んでいただけることを目指している。

活動の内容

①毎月第2月曜日に、特別養護福祉施設「福寿荘」で入所者の衣服直しやズボン丈直し、ゴム通し、シャツのボタン付け、シーツのファスナー直し等、個々の注文に応じている。

また、車いす用座布団やひじ掛け、ソファーカーバー、足が麻痺された方用の車輪まきこみ防止足カバーなど、利用者に応じた多種多様な介護用品の注文にも応えている。

他にも、ポータブルトイレを使用しない時のカバーや、用を足すとき、人に見えないようにするエプロンのようなものなど、あらゆる注文に応じている。

②毎月第3月曜日に、市内総合福祉センターで車椅子の車輪カバー（1台の車椅子でも屋内と屋外両方の利用ができるように工夫）や車いすから身体がずり落ちないようにする座布団や、前かがみになって落ちないように車いすにつけるT字型ベルト等を作る。職員の方とも相談しながら、それぞれ症状が違うので、その人に応じた物を作る。また、市内の高齢者の方からの依頼も受け、衣服の直しや、四肢麻痺の方のために、パジャマに長いファスナーを付け、脱ぎ着がしやすいようになどの依頼にも応じている。

※全員が洋裁経験者ということもあり、多種多様な注文に応じているが、簡単なことではなく、依頼があればメジャーを持ってその場へ走り、採寸・作成をしていく。

これからめざしたいこと

出来上がった作品を見て、利用して、とても喜んでくださると、私たちの生きる喜びとなり、かえって元気もらっている。仲間同士でいろいろ話し合って知恵が生まれ、勉強にもなるし、何より自分たちのつどいの場でもあり、生きがいにもなっている。高齢化のため、後継者不足が課題だが、裁縫ボランティアとして、地域の介護情報誌等で広く知らせ、作品等も具体的に見せていくことで、自分たちの活動を理解してもらい、仲間を募っていき今後も継続していく。



優秀賞（y a b 山口朝日放送賞） 光紙芝居

代表者 末岡 美由紀（地域づくり分野／光市）

活動の動機・目的

小学校で民話の読み聞かせをしていた時、郷土のお話を子どもたちに楽しくわかりやすく伝えられないかと思い、手作り紙芝居を作ったのが始まり。絵本の読み合いグループ等に声をかけて発足。光市全体が一体感が持てるよう、文化伝承活動の一環として話を掘り起こし、紙芝居を作り上演、広く後世に伝える。住んでいる人が光市の良さを知り、郷土を誇れるよう「心のふるさとづくり」をめざす。

活動の内容

- ①光市の昔話や民話など光市に関する話を掘り起こして、手づくり紙芝居を作成していく。
 - ・現地や神社仏閣等に出向く。図書館、地方史研究会、地域の高齢者などから情報を収集。
 - ・5周年（2010年9月）を迎え、念願だった光市全域での紙芝居ができ、紙芝居は38作品となる。（光空襲を題材に、国民学校高等科の生徒だった方の戦争体験を基に制作した作品2話も含む）
- ②練習は光市地域づくり支援センターで月に1回、例会時に勉強会や新作発表等と併せて行う。
- ③山口県民活動きらめき財団の助成事業として、今年度は「紙芝居マップ」を作成。
 - ・「紙芝居のふるさと巡り」を3回に分けて企画開催（第1弾「島田川お花見ウォーキング」・第2弾「室積史跡さんぽ」・第3弾「市内一周！バスハイク」）。紙芝居話の箇所での上演にも力を入れる。
- ④5周年記念誌を11月に発行（A4版14ページで200部）印刷し、学校・公民館・図書館等に配布。
- ⑤市内小(9)中学校(5)で紙芝居上演、制作を指導(3校)。市内外他団体での上演指導や制作への協力。
- ⑥下松ケーブルテレビで放映（今年度は毎月、紙芝居を数話収録し、1年間毎日放映）。
- ⑦光ふるさと郷土館で定期上演(月1回)他、子供会・老人会・祭り・公民館・福祉施設・各イベントで上演。
- ⑧第5回「子どもとおとなの紙芝居」を光井公民館で開催（紙芝居と参加型イベント毎年12/23日）。
 - ・光井中学生有志が手作りした紙芝居『命の城』を、光紙芝居は光井地域の話を上演。
 - ・手作りカルタ大会/“伝えよう！光の魅力よいところ大募集”と題して市民に光の「ええところ」をはぎに文や絵で書いてもらい、約230作品の中から選んでカルタを作り、皆で楽しんだ。
- ⑨市民対話集会「未来をあなたとプロデュース」に応募し、夢やアイデアを市長と会員で語り合った。
- ⑩田布施・下松・周南との繋がりも広がり「プレ全国紙芝居祭り in 松山」や「岡山国民文化祭『民話の祭典』」と一緒に出掛け交流し、紙芝居を紹介して光市の良さをアピールした（年間上演回数約80）。

これからめざしたいこと

2011年6月4日、光市で県内紙芝居団体の「紙芝居上演・交流フェア」を開催する。各地域の独自性のある紙芝居を通して、県内市町の繋がりづくりと切磋琢磨しあう場にしていく。初心を忘れず、地域に愛される活動を皆で続ける。今後も紙芝居を通して多くの人がふるさとへの想いを深め、人との繋がりを大切にしながら、夢を持って元気に輝けるよう、まちづくりのお手伝いをしていく。



「島田川お花見
ウォーキング」
島田川の紙芝居



「子どもとおとなの紙芝居」
紙芝居後のカルタ大会で・・・

優秀賞（山口新聞社賞）

点訳すずかけの会

代表者 中空 順子（福祉分野／宇部市）

活動の動機・目的

ほとんどのメンバーが点字講習会に参加したことがきっかけとなっている。視覚障害者の情報収集のバリアフリー化を目指し、さまざまな情報を点字で提供していくことを目的とする。

活動の内容

①点訳・印刷（定例会を毎月2回と随時開催）

点訳は二人一組で校正。自宅でも実施。新刊図書は時間が勝負なので、手分けをして点訳する。出来上がったものは全国ネット、サピエ図書館に登録する。

- ・図書、新聞記事、宇部市広報、社協だより、視覚障害者福祉協会、身体障害者団体、その他（防災、ボ連総会等）の情報、お知らせ資料。点訳・印刷と併せ各グループの自由学習実施。

- ・市内の店のメニュー点訳

②中途失明者点字教室を毎週水曜日に福祉会館で実施。

③宇部市内、小・中・高・専門学校・大学での点字指導（点字指導員メンバーが交替で指導）。

宇部看護専門学校／黒石・東岐波中学校／上宇部・小羽山・万倉小学校／宇部商業高等学校

④図書館での点訳図書・音訳テープの貸し出し作業（毎週木曜日）。

市広報、社協だより、ハザードマップ、本の発送。新聞記事や他リクエストに応じる。

⑤視覚障害者との交流

- ・視覚障害者女性部感覚訓練交流会、視覚障害者福祉協会秋のレクリエーションの手伝い。
- ・研修旅行は視覚障害者の方たちを招待。感覚訓練のため、1対1でボランティアが対応。

⑥福祉まつりで、遊休品販売、抹茶接待で収益を得る。

⑦今年度も、点訳の技術向上のための研修会への参加、講習会、学習会の開催を継続。

[09年度のプリンティング実績]

図書 60巻・7,927頁／新聞 542部・9,654頁／受託点訳（市、社協等）2,236部・96,241頁／事業資料 566部・2,874頁（総頁数 116,696頁）

これからめざしたいこと

多くの方の役に立てているということが、交流会などで実感できること、また、同じ思いを持った仲間がいるし、同期の仲間が技術向上のため、自主的に勉強会を毎週実施し、お互い励まし合いながら進めていることで、続ける人が増えていることが成果。今後も一般の人に当たり前に伝わっている情報を障害者にも当たり前に伝わるよう適確に知らせていく。2011年のすずかけの会・創立40周年を機にテキストデージー化（テキストデータを合成音声で読み上げる図書データ形式）を図りたいと思っている。現在模索中。



コープやまぐち奨励賞 アレルギーっ子の会 ぽればれ

代表者 鎌田 美由紀（子育て分野／山口市）

活動の動機・目的

平成16年「栄養士ネットワークぽこぽこ」により、「食べもの井戸端会議ぽればれ」として発足し、平成19年より、母親主体で活動。子どものアレルギーに悩み、ストレスを抱える中、他の人の体験談を聞いたり、話をすることで楽になることと、同じ悩みを共有でき、共に学べる場が欲しかったので、活動を続けている。アレルギーに悩む母親たちが、元気になること、アレルギーに興味を持つ人にアレルギーっ子やその親への理解を深めてもらうこと、お互いの情報交換、交流を深めることを目的としている。

活動の内容

- 4月 座談会で情報交換「掃除、洗濯、etc. みんなどうしてる？」
 - 5月 自然農法のキッチンガーデン体験/プランターの土づくり、ミニトマトの苗植えつけ
 - 6月 講座「気働きの食卓でつながる笑顔の輪」梅酵素ジュース作りの調理実習
 - 7月 自然農法のお抹茶と季節のお花で癒しの時間を過ごそう
 - 8月 定例会休み / ぷちぽればれ（会員限定の不定期の会）「親子で楽しむ音楽会」開催
 - 9月 「気働きの食卓から」 第2回目～その暮らしに触れてみよう～ステップアップ編
 - ・ぷちぽればれ座談会「幼稚園選び、幼稚園の実際」
～給食だけでなく、子どもや親にあった園選びについて情報交換
 - ・子育て支援メッセ 模造紙展示
 - 10月 手作りの楽しさ、美味しさがわかる毎年恒例のみそづくり
 - 11月 調味料味くらべ
 - 12月 アレルギーっ子の食べられるマクロビケーキ作り
 - 1月 野菜ソムリエの食育ボランティアを招いて「安心安全な野菜のお話」
 - ・ぷちぽればれ「ランチに行こう」マクロビビオティック料理を楽しむ会で情報交換
 - 2月 アレルギー週間に“さぼらんで”で活動模造紙展示/「アレルギーっ子 ほっとサロン」開催
 - ・ぷちぽればれ「第2回味噌作り」
 - ・子育ていきいきフェスタ 模造紙展示
 - 3月 総会 今年度の活動報告と来年度の計画
- ＊静岡アトピっ子親の会との交流（会報交換）

これからめざしたいこと

「同じ悩みを持つ人がいる、わかってくれる人がいること、アレルギーがあっても、子ども達は元気に育っていくよ。なんとかなるよ。一人ではないよ。」ということを伝えあう場になっている。非会員の参加も多く、遠方からの会員（長門・防府）の参加もあり、会が必要とされていることを実感。会に参加した人たちが少しでも楽しく、元気になってもらえるように、アレルギーのない人にもアレルギーに悩む人のことを理解してもらえるような活動を続けていく。



コープやまぐち奨励賞 さくらベルズ

代表者 開作 玲子（福祉分野／山口市）

活動の動機・目的

音楽大学の同窓生が集まって「それぞれ得意の楽器で集まって何かやりたいね」と思ったことがきっかけ。地域や生涯学習、高齢者施設、デイサービスなどで、日本の歌を中心とした音楽を通して、楽しく豊かな感動の時間を味わっていただき、いつまでも元気でいていただきたいとの思いで活動。

活動の内容

高齢者に向けて聞かせるということだけでなく、ふれあいコンサート、参加型コンサートを視点に進めている。施設入居者だけでなく、日々、頑張っておられるスタッフの方たちも楽しめて満足いただける内容を工夫。使う楽器は、キーボードかピアノ、チェロ、木管楽器、ハンドベル、ギターなど。

- デイサービス訪問（アスワン山荘、みのりえん、天宿なぎの木、夢のみずうみ村など病院併設施設やホーム）
- 地域のいきいきサロン（中央通り、岩倉、その他山口市内）
- 病院入居者（常盤台病院、山口リハビリ病院、日本赤十字病院）
- 各種イベントへのゲスト出演（ボランティアのつどい、老連芸能大会等）
- 他には
 - ・小郡社協ボランティア協議会の開催される会議、講習会、研修会に参加
 - ・長門市で毎月1回開催される高齢者対象の“うたおう会”の伴奏者として参加
 - ・青年会議所などの定例会でのコンサートなど

デイサービスでの内容例は

- ①みんなで合唱。
- ②身体を動かして（指先→上半身→全身）常に生の音楽と共に、無理なく、またリハビリに役立つよう身体能力の維持、様々な機能についても意識したプログラムを実施。
- ③生の演奏を鑑賞していただく。
- ④小物楽器を使って、楽しんでもらいながら、合奏の楽しさも味わっていただく。

これからめざしたいこと

チェロの響きが聴いている人の共感と呼び、寝たきりや車椅子の人たちが、身体や手を動かし、笑顔を見せたり、涙される姿をみて、よかったと実感。この間、高齢者施設は増加し充実してきた一方で、スタッフの方のご苦労も感じている。入居されている方でいつも無表情の人が笑顔になるのを見て、スタッフの方が本当に喜んでくださり、勉強になるし、楽しいと言ってもらえることが多くなった。皆がそれぞれ働いているので、平日の午前・午後の要請に対し、メンバーが集まりにくく、練習も全員が揃わないことが多いが、夜に練習し、「コンサート」に照準をあわせ、皆で調整する。音楽を通して、自分たちも含めてみんなが楽しいひと時を過ごせ、心からのふれあいをしていきたいと今後もメンバー全員頑張っていく。



コープやまぐち奨励賞 河原寿会・棚田数え唄

代表者 上野 洋子（地域づくり分野／長門市）

活動の動機・目的

高齢化の中、高齢者の私たちができることは何かと考えたとき、大型機械化農業の時代に育つ子どもたちへ、昔の人々の米作りの厳しさやのどかさを伝えたいとの思いで、お米の一生を表現した「棚田数え唄」を作り、CD、カセットテープを売りながら、同時に舞台で演じている。町村合併の2年前に、老人体育大会の引き受け当番になったとき、印象に残るもの、河原地域独自の物を作りたいとの思いで誕生させた。

活動の内容

「日本の棚田百選」に選ばれている長門市油谷の棚田。その棚田でのかつての農作業の様子をユーモラスな唄と踊りで表現。作詞は俳句が得意な副会長が、作曲・唄は光市の音楽活動家に依頼、コーラスは児童合唱団ひかりにお願いして完成した。振り付け・踊り指導は隣地区の日本舞踊家をお願いした。

唄にあわせて田植えの仕草を巧みに取り入れて早乙女姿で踊る。お百姓さんが登場したり、二人がかりで演じる「牛」が現れたり。小道具や衣装のアイデアもふくらみ、縫い物の得意な会員が脚絆を縫うなど、一人ひとりの得意の技・知恵を活かす。

- ①練習は、みんなが集まれるサロンの意味合いもかねているので、当番で昼食やおやつを作って楽しみながら行っている。
- ②ふるさと祭り等でCDやカセットテープ、歌詞を書いた湯呑を手配りで販売。棚田数え唄をふるさとの伝承文化として次世代へつないでいこうと、寄付で、「石碑」を作った。
- ③河原地区の子ども会へ参加を呼びかけ、8月～11月まで、月2、3回の練習を積み、秋祭りで会員と混成で踊った。他には、2月の芸能文化発表会（油谷文化祭）にも参加。子どもたちの練習時のおやつは、「麦飯にぎり・芋ご飯・大根の煮しめなど」。
- ④油谷光明寺の降誕会では、お参りした子どもたちに声をかけ、ナレーションを担当したり、昔、子どもたちが手伝っていた稲運びやもみひろい等を即興で演じてもらった。
- ⑤実際に、油谷小学校5年生と、毎年6月に田植え、10月に稲刈り・はぜ掛けをしている。
- ⑥他には、油谷福祉祭りでバザー参加、歌謡祭等で舞台出演、ころばん体操TV（ケーブルテレビ）収録。週2～3日間、2時間毎に放映され、画面に出ている。

これからめざしたいこと

子どもたちには、舞台が終わった後に感想画を描いてもらったが、皆笑顔だし、印象に残った場面を描いてくれているので、とても嬉しい。子どもたちの毎日は忙しく、練習日に全員揃うことは困難だが、子どもたちとの交流は、努力しながら続けていきたい。私たちが練習を休むと身体が硬くなる（曲は8分半）ので、健康づくりのためにも続けていくし、次世代にも伝えていきたいと思っている。



コープやまぐち奨励賞・学生の部

山口県立大学栄養学科 食育プログラム開発チーム

代表者 内菌 愛（子育て分野／山口県立大学）

活動の動機・目的

今日、食生活の乱れなどを背景に、子ども達に対する「食育」の推進が進められてきている。食育は、生活習慣に根ざした個人の習慣に介入するものであることから、単なる知識の伝達でなく、様々な体験を通して、食や自身の食生活に対する意識の変化、行動の変化につながるプログラムを開発することを目的に活動している。

活動の内容

平成 18 年度に発足し、それ以降継続的に活動している。対象は、主に山口市を中心とした小学生。自主的に活動し、授業の枠を超えてその専門性を地域の中で活かしていく場となっている。子ども達に楽しみながら食に関する知識やマナーを修得してもらいたいと、学生ならではの工夫を凝らしている。楽しみながら自然に学べるように、オリジナルキャラクター「ゴハンジャー」を中心に、自作の教材を用いたオリジナルのプログラムを作成している。また、児童と接する大多数のメンバーは国立山口徳地青少年自然の家にて「ボランティア養成研修」を受講し、自然体験活動の実際や児童がグループ活動を行う上での指導法などを学んでいる。

(1)これまでの活動

- ①国立山口徳地青少年自然の家の企画事業の中で食育プログラムを実施。(H18～H20)
- ②日帰り食育体験プログラム「作って遊んで食べて学ぼう!!」を実施。(H20)
- ③食育体験プログラム「つくって あそんで めざせ!フードマスター!」(2回構成)を実施。(H21)

(2)今年度の活動

- ①親子食育体験プログラム「めざせ!フードマスター!～おとうふだいさくせん!～(豆腐作り、豆腐や大豆についてのゲームやお話)」を実施。初めての親子参加型で開催した。
- ②山口県立大学栄養学科オープンキャンパスにて、高校生へ食育に興味を持ってもらうために活動紹介や媒体の展示を行った。
- ③ボーイスカウト山口県連盟主催のきらら浜ミニジャンボリーに参加。「めざせ!やさしいマスター!!(BOX クイズ/中身の野菜を当てよう、断面当てクイズ、旬当てクイズ)」を実施。

これからめざしたいこと

これまで培った知識と経験を基に、子ども達に食育をもっと身近に感じてもらえ、家庭でも保護者とともに継続的に食育について取り組めるようなプログラムの開発を行っていきたい。また、地域、学校など様々な場面で、小学生のみならず、幼児、中学生など幅広い年代への食育活動を精力的に行なっていきたい。



コープやまぐち組合員賞 CAP 下関

代表者 宮木 桂子（子育て分野／下関市）

活動の動機・目的

小学校の絵本サークルの母親たちが、CAP（子どもへの暴力防止）の本に出会い、勉強会をスタート。子ども自身の「自分を大切にする心」を高め、子どもの「安心・自信・自由」を支え、子どもにもできる防止方法を伝えるCAPプログラムに感動し、CAPスペシャリスト養成講座を受講、CAPプログラムの普及を開始。学校・家庭・地域をCAPでつなぎ、子どもが相談できる大人を増やし、子どもを暴力の被害者にも加害者にも傍観者にもしないことを目的とし活動している。

活動の内容

CAP（Child Assault Prevention）は暴力というテーマを楽しく学び、子どもの人権意識を高め、子どもの「自分を守る力」を引き出す教育プログラム。

①主に学校・幼稚園・保育園でのCAPプログラムを実施（教職員、保護者、子ども向けをセットで）

- ・教職員用のワークショップ：CAPの歴史、内容を説明。子どもワークショップの内容を紹介。問題行動の裏にある子どもの背景、虐待の早期発見、子どもへの対応を考える。
- ・保護者向けワークショップ：公開講座とし、保護者だけでなく、地域の方、民生委員、主任児童委員の方にも参加してもらい、上記の内容を説明・紹介。地域ぐるみで子どもを見守ることを考える。
- ・最後に子どもワークショップ：いじめや誘拐、性被害など様々な暴力に対して、子ども自身ができることや自分も友だちも大切にする方法を伝える。終了後希望児を対象にトークタイム（復習）。

②例会と不定期でワークショップ練習・会報発行（年2回）

③虐待防止啓発講座、いじめ防止講座等の開催（助成事業）

- ・「デートDV防止講座」、「いじめ防止連続講座」、「気持ちのワークショップ」など
- ・小学校、母親クラブ、子育てグループなどの学習会で地域向けおとなワークショップ実施

④やまぐち県民活動きらめき財団助成事業（2009年度～2011年度）

- ・「あなたの大丈夫感覚を取り戻す方法『あなたもわたしも大丈夫だあ』」講師：うどにしつとむ
- ・「CAP就学前プログラム普及事業」無料でモニター園を募集し、4園でCAPを実施

⑤CAPセンター・JAPANの正会員／ブログ「CAP下関ドキドキ通信」で情報発信中

これからめざしたいこと

虐待やいじめという閉鎖的になりがちな問題を語り合うきっかけができ、地域の方、先生、家庭がつながり相互援助の関係も深まった。「すべての人はかけがえのない存在であり、暴力を受けていい人はいない」という当たり前の意識を、地域の様々な立場の人に伝えることは、もっとも重要な施策。交通安全教室や避難訓練と同じように、すべての学校（園）で「子どもの安全教育」としてCAPが実施されるよう行政に働きかけていく。



コープやまぐち組合員賞 がはは本舗

代表者 守屋 佳代子（地域づくり分野／周南市）

活動の動機・目的

子どもたちが在園中に、その幼稚園のお母さんたちで、「未就園児子育てサークル」をつくって活動していた。子どもたちが卒園後も活動のお手伝いができればとの思いで新たに「がはは本舗」を立ち上げた。子どもたちのために、楽しいお買いものをさせてあげて、その笑顔に会うことを楽しみに活動を展開している。

活動の内容

①子育て活動として「お店屋さんごっこ」の出前を行っている。周南市の幼稚園・保育園・子育てサークルを中心に活動しているが、市外でも可能な範囲の依頼に応じている。

【お店屋さんごっこの内容は】

- ・いろいろな品物をチケット（食べもの券やおもちゃ券等）で買うことができ、買ったものはそのまま持ち帰ることができる。
- ・お店はお花屋さん、金魚すくい、食べ物屋さん（お弁当屋・タコ焼き・お寿司・ケーキ・綿菓子・ドーナツなど）など。
- ・商品はすべて手作りで、折り紙や画用紙などで作る。

【同時にエプロンシアターやペープサートを実施】

お店屋さんごっこの始めと終わりには、元保育士もスタッフにおり、自分たちで工夫している。

※ 始めたばかりの頃は、スタッフの持ち寄りの材料でお店屋さんの品物を作っていた。資金を得るため、子どもたちが着なくなった服やおもちゃをフリーマーケットで売り、活動費に充てていた。今は、謝礼金や活動補助金を材料費に充てている。

②その他には

周南子育て支援ネットワーク「虹色ねっと」に参加。2010年は「子育てサークル交流会 in 周南」にも参加。

これからめざしたいこと

品物作りは大変と思うときもあるが、子どもたちが楽しんでいる時の笑顔を見る度、活力をもらっている。スタッフも皆、朗らかで気の合う仲間同士なので、子どもたちの笑顔を活力に今後も楽しく活動していきたい。

今まで出向いたところで、託児のスタッフがいらないということをよく聞くので、新たな活動として、託児の支援ができる体制も作っていただければいいなと思っている。

